令和2年関川村議会12月（第10回）定例会議会議録（第1号）

○議事日程

令和2年12月10日（木曜日） 午前10時 開会

- 第 1 会議録署名議員の指名
- 第 2 議会運営委員長報告
- 第 3 一般質問
- 第 4 議案第69号 関川村特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 第 5 議案第70号 関川村督促手数料及び延滞金徴収条例の一部を改正する条例
- 第 6 議案第71号 関川村国民健康保険税条例の一部を改正する条例
- 第 7 議案第72号 関川村介護保険条例の一部を改正する条例
- 第 8 議案第73号 関川村指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例
- 第 9 議案第74号 関川村後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例
- 第10 議案第75号 令和2年度関川村一般会計補正予算（第8号）
- 第11 議案第76号 令和2年度関川村国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号）
- 第12 議案第77号 令和2年度関川村介護保険事業特別会計補正予算（第3号）
- 第13 議案第78号 令和2年度関川村後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）
- 第14 議案第79号 令和2年度関川村下水道事業会計補正予算（第2号）

○本日の会議に付した事件

- 第 1 会議録署名議員の指名
- 第 2 議会運営委員長報告
- 第 3 一般質問
- 第 4 議案第69号 関川村特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 第 5 議案第70号 関川村督促手数料及び延滞金徴収条例の一部を改正する条例
- 第 6 議案第71号 関川村国民健康保険税条例の一部を改正する条例
- 第 7 議案第72号 関川村介護保険条例の一部を改正する条例
- 第 8 議案第73号 関川村指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例

- 第 9 議案第 7 4 号 関川村後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例
 第 1 0 議案第 7 5 号 令和 2 年度関川村一般会計補正予算（第 8 号）
 第 1 1 議案第 7 6 号 令和 2 年度関川村国民健康保険事業特別会計補正予算（第 4 号）
 第 1 2 議案第 7 7 号 令和 2 年度関川村介護保険事業特別会計補正予算（第 3 号）
 第 1 3 議案第 7 8 号 令和 2 年度関川村後期高齢者医療特別会計補正予算（第 1 号）
 第 1 4 議案第 7 9 号 令和 2 年度関川村下水道事業会計補正予算（第 2 号）

○出席議員（10名）

1 番	渡 邊 秀 雄 君	2 番	近 壽 太 郎 君
3 番	鈴 木 紀 夫 君	4 番	伊 藤 敏 哉 君
5 番	小 澤 仁 君	6 番	加 藤 和 泰 君
7 番	高 橋 正 之 君	8 番	平 田 広 君
9 番	伝 信 男 君	1 0 番	菅 原 修 君

○欠席議員（なし）

○地方自治法第 1 2 1 条の規定により出席した者

村 長	加 藤 弘 君
副 村 長	宮 島 克 己 君
教 育 長	佐 藤 修 一 君
総務政策課長	野 本 誠 君
住民税務課長	渡 邊 浩 一 君
健康福祉課長	佐 藤 充 代 君
建 設 課 長	渡 邊 隆 久 君
農 林 課 長	富 樫 吉 栄 君
教 育 課 長	熊 谷 吉 則 君
健康福祉課参事	佐 藤 恵 子 君
住民税務課参事	須 貝 博 子 君
観光地域政策室長	大 島 祐 治 君

○事務局職員出席者

事 務 局 長	河 内 信 幸
主 幹	渡 辺 め ぐ 美

午前10時00分 開会

○議長（渡邊秀雄君） おはようございます。

ただいまの出席議員は10名です。定足数に達していますので、これより令和2年12月（第10回）関川村議会定例会議を開会します。

これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

議事進行によろしくご協力をお願いします。

例規集等の閲覧のため、議員及び執行部の皆さんにのみ、議場におけるタブレット端末等の使用を許可します。

日程第1、会議録署名議員の指名

○議長（渡邊秀雄君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本定例会の会議録署名議員は、会議規則第127条の規定によって、8番、平田 広さん、9番、伝信男さんを指名します。

日程第2、議会運営委員長報告

○議長（渡邊秀雄君） 日程第2、議会運営委員長の報告を行います。

議会運営委員長から本定例会議の会議日程（案）について報告をお願いします。議会運営委員長 小澤さん。

○議会運営委員長（小澤 仁君） おはようございます。

本定例会議の会議日程及び議案の取扱い等について申し上げます。

去る12月1日、令和2年12月（第10回）定例会議の運営について、役場第2会議室において、委員及び議会事務局職員出席の下、議会運営委員会を開催しました。

その協議の結果について報告します。

最初に、会議日程については、お手元に配付の会議日程表（案）のとおりです。

まず、本日の会議では、会議日程の決定後、一般質問、各議案の上程を行います。終了後、産業建設常任委員会を開催し、付託案件の審査を行います。

11日と、14日から16日までは、議案調整及び委員長の事務整理日とします。

17日木曜日は、午後3時30分から本会議を開催し、産業建設常任委員長から委員会審査の報告を受けた後、採決を行います。

なお、追加議案が上程された場合は当日審議をし、即決とします。

次に、議案等の取扱いについて申し上げます。

議案第69号から議案第74号までは条例の一部改正案件です。それぞれ単独上程し、提案理由の説明を求め、質疑、討論を行い、即決とします。

議案第75号は令和2年度一般会計補正予算案件です。単独上程し、提案理由の説明を求め、質疑を行い、産業建設常任委員会へ付託します。

議案第76号から議案第79号までは、各会計の補正予算案件です。それぞれ単独上程し、質疑、討論を行い、即決とします。

次に、一般質問について申し上げます。

一般質問の通告は11月26日正午で締め切り、5名の方が本定例会において質問を行います。

次に、請願・陳情につきましては、お手元に配付の陳情文書表のとおりです。産業建設常任委員会において審査をお願いします。

以上で報告を終わります。

○議長（渡邊秀雄君） ただいまの委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 質疑なしと認めます。委員長、ご苦労さまでした。

お諮りします。本定例会議の会議日程は議会運営委員長報告のとおりとしたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。したがって、本定例会議の会議日程は、お手元に配付の会議日程表（案）のとおり決定しました。

村長から、定例会議開会に当たり、挨拶の申出がありました。これを許可します。村長。

○村長（加藤 弘君） おはようございます。

早いものでもう12月半ばになりました。議員の皆様におかれましては、本当にご多用なところ令和2年関川村議会第10回の定例会議でございますけれども、お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

今回、定例会議に提案いたします案件につきましては条例の一部改正が6件、補正予算案件5件、合わせて11件でございます。

追って、上程の際に詳細な説明を申し上げますが、慎重審議の上、ご賛同くださいますようよろしく願い申し上げます。

○議長（渡邊秀雄君） 以上で村長の挨拶を終わります。

日程第3、一般質問

○議長（渡邊秀雄君） 日程第3、一般質問を行います。

質問の通告者は5名です。発言を許可します。

初めに、10番、菅原 修さん。

○10番（菅原修君） おはようございます。私からは、鳥獣被害防止対策についてお伺いいたします。

全国や県内で熊の目撃や人的被害が相次ぐ中、村でも10月1日に2件の人的被害が発生し、その後、被害者1人が亡くなるという事態を受け、村民の不安をなくすためにいろいろな対策を検討していただきました。その中で、猟友会の方々には見回りやわなの設置で、十数頭の熊を駆除することができました。猟友会の方には、熊のほかにもイノシシ、猿、ニホンジカ、カワウ、アオサギ、カラス、タヌキ、ハクビシン等の駆除があり、負担が非常に大きいと思います。そこで、次のことについて村長にお伺いいたします。

1、猟友会への補助金、委託金等の増額を支援できないか。

2点目、わなにICTを導入できないか。

3点目、猟友会の高齢化や会員数が減少もあり新規狩猟免許取得費用の全額を補助する考えはなにかをお伺いいたします。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） 菅原議員のご質問に順次お答えをいたします。

まず、1点目の猟友会への補助金委託金等の増額支援についてでございます。

村の有害鳥獣対策は、熊やイノシシといった人的被害のある危険性のあるもののほかに、農作物に被害を与えるタヌキやハクビシンといった小動物、また漁業に甚大な被害を与えますカワウの捕獲や駆除活動において、猟友会の皆様には大変ご尽力をいただいております。猟友会では、年間通じましてこれらの有害鳥獣の駆除、巡回活動、ニホンザルの駆除などの活動費用を運営費補助と併せてお支払いをしております。今年は、特に熊の出没が頻発となり、人的被害も発生しましたことから、わなの設置や巡回パトロールなど、例年にも増してご負担をおかけをしております。緊急的にお願いしました巡回パトロール経費などにつきましては、今回補正予算を要求させていただいておりますので、後ほどご審議をいただきたいと思います。

お尋ねの委託料の増額についてでございますが、交付単価の高い国の交付金事業を導入しますれば、駆除費用の増額につながる事となります。この交付金事業は、村上市をはじめ他の自治体も導入しておりますので、村としましても駆除費用の増額に向けて導入すべく、猟友会の皆様と協議を進めてまいりたいと考えています。また、わな設置に関する実技的な研修など、間接的な支援についても支援を実施したいと考えております。

2点目のわなへのICT導入についてでございます。

今年11月にNTT東日本株式会社のご協力によりまして、ツキノワグマ捕獲おり4基に、捕獲がかかった際にセンサーが反応し、捕獲の情報を関係者の携帯電話などへメールで通知するシステム

の実証実験を行ったところです。実証実験は、当初11月末までの予定でしたが、その後も各地で熊の出没が相次いでいることから、12月11日まで期間を延長し、現在も実証実験を継続しているところでございます。今後、実証実験の効果について猟友会と検証を行っていく予定となっておりますが、現在のところ設置したわなの状況が事前に分かることで、準備や対処が楽になったとのご意見をいただいております。

ただし、子熊がわなに入っていて母熊が近くにいる場合もある、設置場所の状況を動画で見たいなどのご意見もいただいております。これらのご意見も踏まえ、利用上の利便性と導入費用などのコスト面での検討を加え、導入に向けた検討を猟友会と進めていきたいと考えています。同システムで、くくりわなについても同様に使用することができますので、併せて検討してまいりたいと考えています。

次に、新規狩猟免許取得費用の全額補助についてでございます。

免許取得費用に対する補助につきましては、県が行っております第1種猟銃免許取得と、猟銃の所持許可等の取得のための費用の全額を、県と村で2分の1ずつ補助しております。わなの免許取得費用につきましては、村の単独補助として半額を補助しております。このわな免許取得費用については全額補助とはなっておりませんが、猟友会の協力を得て地域ぐるみで取り組むなど、村の有害鳥獣対策として有効な取組と認められる場合については、全額補助を含め補助の拡大を検討していきたいと考えています。今後とも、県の補助事業を有効に活用し、免許取得費用の軽減を図りながら、有害鳥獣対策の担い手の確保に努めてまいりたいと考えています。

○議長（渡邊秀雄君） 10番、菅原さん。

○10番（菅原 修君） ありがとうございます。

1点目の猟友会の補助金または委託金等の件ですが、恐らくこれができたのが猿に対しての補助だけだったと思うんです。その後にイノシシ、カワウ、アオサギもそうですが、ニホンジカ等、いろんなものが増えて、特にイノシシはこのところ目に余るぐらい増えてきておまして、いろんな部分で農家の皆さんにご迷惑をおかけしていると思います。そういう意味でぜひ、猟友会の皆さんはただ鉄砲持っていけばいいと、皆さん思っているかもしれないですが、鉄砲持ち出すにも二重、三重の鍵がかかっているわけですから、それを外してまた一部分鉄砲の分解して、別保管になっているわけですよ。それをまた分解を組み立てて、行かなきゃならない。また、弾に対しても二重に鍵が、弾ロッカーにかかっている、それを準備して、出るまで大変な準備して出なきゃならないという部分もあります。出て、駆除してまた帰ってくれば、銃の手入れをしてきちっとした状態で分解をして、一部分を別保管して、また二重、三重の鍵かけて保管しなけりゃならないということが決まりですので、そういうことをやりながら、大変なことをしながら出ているわけです。そういう部分もあるし、いろんな部分で、イノシシ、役場に直接電話しなくて、もういるから来てくれとか、

直接猟友会に電話来るわけですよ。そういう報告は恐らく村に入っていないと思いますが、そういう部分で猟友会の皆さんは、本当は趣味で始めた狩猟だと思うんですが、今は趣味じゃなくてボランティアみたいな形で、皆さん大変な苦勞されているわけですよ。このまま続くと、やはり皆さんとてもじゃないが辞めなきゃならないという人も出ていますので、そうなったら大変ですので、もう少しできれば予算をつけていただいて、皆さんに何とかそういう大変なんですけれども、増額できればありがたい部分だと思いますので、ぜひそういうことを大幅に検討していただきたいと思いますが、村長、いかがでしょうか

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） 鳥獣害対策におきます猟友会の役割というのは、極めて大きいと認識しておりますし、これから猟友会の高齢化の中で、担い手を確保するというのも大事になってきていると思います。そんな中で猟友会に対する支援というお話でございますが、様々な支援がございますが、具体的にどういう事業に対してどういう支援ができるのかということにつきまして、もう少し猟友会の方とよくお話をしながら、どんな形が適切ということについてはもう少し議論をしながら、今後の補助の在り方も考えていく必要があるかなと考えているところでございます。

○議長（渡邊秀雄君） 10番、菅原さん。

○10番（菅原 修君） ぜひ、そういう部分でご検討お願いしたいと思っておりますし、また高齢化も増えておりますし、先ほど話したように、いろんな部分でイノシシが関川村でも非常に増えている。これ、豚コレラも新潟県で何年か報告されておりますし、こういうものが来るとまた大変な養豚業者には負担になってくると思いますので、そういう部分もあると思いますので何とか防ぐためにも、皆さんにご協力を願うといっても、猟友会でせめてできるのは、雪が降らないと足跡がつかないの で駆除ができないんですよ、銃では。ですから、雪が降ったときにはそういう対策ができると思いますので、一部本当に献身的な人は、そういう部分で本気になって取り組んでおられる方もおりますが、猟友会としても年に三、四回招集かけていろいろしておるわけですけれども、それもほとんど全員に近い皆さんが参加していただいて、何とかそういう部分での協力をしていただいているわけですよ。

ですから、ただそれに対しての本当に少ない金額で猟友会を出す、心苦しい部分もあるんですが、何とかそれを増額していただければ、皆さんもう少し頑張ってもらえるのではないのかと思いますので、ぜひその辺のご検討をお願いしたいと思います。

それと、2点目のわなにICTを導入できないかという部分ですが、これは今、村でもNTTの協力を得て、何か所か設置して状況を見ているわけですが、ぜひ村長さん話されたように、熊に対してはわなかけるのをちゅうちょしているのはそこなんです。わなかけて、逆に親子連れの子が先に入ると、どうしてもその周りに親がいて、そこにたまたま猟師がいるのであればいいけれども、

ほかの人がもしそこを通っただけでも、親は襲ってくる可能性があるわけですね。そういう部分で大変危険な状況になると思うんです。ですから、ICTを導入していただければ、すぐ本人の携帯に入ってくるわけですから、入った状況が分かるわけですから、そういう対処ができると思うので、ただ近いところにかけてのであれば毎朝見に行けるという部分もあるんですが、ちょっと離れたところにかけてりすると、なかなか毎朝見に行くのは大変な状況だと思います。なかなかできない部分ではないかと思うので、ぜひICTを導入していただければ、そういうところは解消されるのではないかなと思いますので、ぜひこれも検討していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

3点目ですが、本当に猟友会も高齢化して、もう1回、これから先10年、20年先のことを考えていかなければ駄目だと思いますけれども、今年たまたま30代の方が1人新規で入っていただきましたけれども、やはりこういう対策をきちんとやっていただかないと、10年後、20年後になったら猟友会の活動は激減していると思いますので、その割に有害鳥獣が物すごく増えてくるという大変な状況になるのではないかなと思いますので、今からやはりしっかりとこういう対策をしていただいて、やっていかないともっと大変なことになってくるのかなと思いますので、ぜひ村長にはそういう部分、また新規、取得免許だけじゃなくて銃に関しても、よそでは幾らか補助金を出しているというのがありますし、そういう部分でいろいろな部分、銃を買ったとしても、またそのほかにガンロッカーとかいろいろな部分で経費がかかっているわけですね。ですから、何とかそういう費用を少なくして、なんとかそれでも恐らく、そんなに年を通して入ってくる人もないと思うんですが、やはりこれに対してきちっとやっていかないと、なかなか増えてこないのではないかなと思いますので、村長、その辺もう少し、どういう考えをお持ちかをお聞かせいただけますか。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） 担い手が高齢化をしていて、今議員がおっしゃったとおり、これから年月がたてばますます数が減るんじゃないかという危惧もあります。具体的に、免許を取得してそういう活動をしていただける方を増やすために、どうしたらいいかということだと思います。今おっしゃったように、支援という方法もありますし、要は担い手を増やすために、今何がネックになっているか。例えば、今おっしゃったように、銃の保管に年間十数万円かかると、そういうものがあるために、取得免許を取ってやらないんだけど、そこを解消すれば人が増えるというのであれば、その対応もしなきゃなりませんし、具体的にその辺のことを十分、それを考えながらネックになっているところを、場合によっては補助で解消されるのであれば、そこはしっかりと補助をする中で、会員を増やすような形の取組を進めていきたいと思います。

○議長（渡邊秀雄君） 10番、菅原さん。

○10番（菅原 修君） ありがとうございます。そういうことでは、ぜひ村長にはいろいろな部分でご

検討いただければと、ありがたいと思います。ともかく、これからまだいろんな部分で有害鳥獣が増えてくるとは思いますけれども、そういうことでもう1点ですが、今農林課で担当の方がおられるんですが、1人なんですね。1人の方で全て対応するのは、非常に無理があると思います。今回もまだ補助金の部分で申請してもなかなか下りてこない。昨年であればちょっと早めに出たんですけども、今年はまだ下りてこないのがありますので、途中の中で1回下ろしてもらおうというのも、まだそれも落ちてこないというのがあります。そういうことで、1人では大変な作業なのではないかなと思うので、担当の方ももう少し増やしてもらうか、専門にそれをやってもらわない限り、なかなかこういうことは解消されない部分だと思いますが、その辺は村長さん、いかがですか。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） まさに関川村、職員を、限られた職員の中で全ての施策に対応しておりますので、確におっしゃるとおり、人を増やせばそれも解消するかもしれませんが、鳥獣被害だけなしに、様々な県の重要施策を職員がそれぞれの研さん積む中で、できるだけ対応しているところでございます。村の財政状況もありますから、業務が増えれば人を増やすのではなして、業務の在り方をどうやって見直していけばいいのか、そういうことも含めてあるいは課内の協力体制含めて、もしそういうところで遅延があるのであれば、その対応をどうするのかということ、まず考えていかなければいけないなと思っているところでございます。

○議長（渡邊秀雄君） 10番、菅原さん。

○10番（菅原 修君） その辺大変あれですけども、今回みたいな熊の騒動とか、当然1人では対応し切れない部分が出てくるとは思います。そういう体制もつくっていただかなきゃならないし、またこれからいろんな部分での有害鳥獣の駆除等に対して、やはり村で本気の、農家の方に言わせると、役場に電話しても駄目だからこっちに電話しているんだって言われるんですけども、ともかくそういう部分で、駄目だと言われぬような対策をきちっとしてもらわないことには、農家の皆さんも納得しないと思いますので、ぜひそういう部分でもう少し力を入れて取り組んでいただきたいなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） 今ほど大変心苦しいといいますか、役場に話ししては駄目だと、私にとっては役場が失格だと言われているのも同然かと思ひます。鳥獣被害だけはなしに、様々な村民のニーズがあります。それについて、それぞれの立場でしっかり対応できるようにしなければならぬと思ひておりますし、担当1人ということじゃなしに、鳥獣害というのは担当1人の仕事じゃありません。農林課全てのミッションでもありますから、担当任せにするのじゃなしに、連携の中で対応できるような対応も考えなければなりませんし、おっしゃった言葉が、今後もさらに役場に頼っていは駄目だということのないように、ご意見踏まえましてしっかり対応していきたいと思ひてお

ります。

○議長（渡邊秀雄君） 10番、菅原さん。

○10番（菅原 修君） ありがとうございます。以上で、私の質問を終わります。

○議長（渡邊秀雄君） 次に、2番近さん。近さん、ボタン押して。押してある。

○2番（近 壽太郎君） 私からは第6次後期総合計画、総合戦略と今後の審議会の在り方という点について質問させていただきます。

総合計画は様々な課題を抱える中、今後どのような村づくりを進めていくかを示す上で最上位の計画で、平成16年度に自立の村として施行した関川村村づくり基本条例の本旨に沿って、村民と行政が協働して村づくりを進めていくための計画であると、策定の目的にあります。したがって、課題解決のための計画でもあると思っております。

今回の第6次後期総合計画の策定は、現実に沿ったものであり、それを有効に活用できるものでなければ絵に描いた餅となってしまいます。昨年12月の一般質問において、第6次後期総合計画を1年延長して、総合戦略と一緒に策定する旨の答弁がありました。また、その折、審議委員の方々が忌憚のない意見を言えるような環境、スケジュールで拙速にならないよう配慮する旨の答弁もありました。しかし、その後、コロナ禍においてどのような審議が行われたのかなども含めて、次の質問をいたします。

1つ目、審議内容と経過について伺います。

2つ目、審議会の定数と選任方法は現状でよいか。

3つ目、審議会に指導、助言ができる識者を採用する考えはないか。

4つ目、答申内容をもっと詳しく具体的に村民に周知できないか。

以上、伺います。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） 近議員の質問に順次お答えをいたします。

まず初めに、これまでの審議内容と経過についてのご質問でございます。

総合計画については、議員ご指摘のとおり、総合振興審議会の委員の皆様が発言しやすい環境を整えて、幅広く意見交換をしながら策定業務を進めたいという思いでございましたが、今年度に入り、全国的に新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、村としましても、まずは新型コロナウイルスの感染防止対策を最優先としなければなりません。審議委員の皆様は、医療や介護をはじめ、様々な職にお就きの方がおられますので、感染防止の観点から委員が一堂に会した会議は断念をし、やむなく書面による意見交換の審議としたところでございます。

総合戦略の進捗状況につきましては、6月に委員の皆様へ重要業績評価指数、KPIと呼んでおりますが、その現状を確認をいただき、書面にてご意見をいただいたところでございます。また、

次期計画となります第6次総合計画の後期計画及び第2次総合戦略につきましては、前期計画の進捗状況や委員のご意見を参考にしながら素案を策定いたしました。先月には、その内容について委員の皆様からご意見をいただき、現在それを基に所要の調整を進めているところでございます。

次に、審議会の定数と選任方法についてでございますが、関川村総合振興審議会条例では、委員は40人以内で組織すると規定しております。40人という数につきましては、他の自治体に比べて多い人数でございます。これはより多くの住民の皆様からご意見をいただきたいという思いでの設定でございます。しかしながら、条例を制定いたしました昭和57年当時に比べますと、人口も相当減少しておりますし、地域や集落等で1人の方が幾つもの役員を兼務している現状もございましたので、平成29年から10人減らしまして、30名の皆様に審議委員をお願いしているところでございます。委員の選定方法につきましては、地域に偏ることがないように、各コミュニティーから推薦をいただいているところでございます。

3点目の、助言、指導ができる識者の採用についてのご質問でございますが、総合振興審議会の委員に、各地区から推薦をお願いしておりますのは、率直に村民の皆様のご意見をお聴きし、行政だけではなしに村民みんなでつくる計画にしたいという思いと併せて、村の施策や事業などについて、多くの皆様から関心を持ってもらいたいという2つの思いがあり、これまで審議会開催の際は5人程度のグループに分け、少人数で発言しやすい雰囲気の中で村の事業を説明し、ご意見を伺っております。こうした審議のスタイルからも、指導、助言できる識者を委員として採用していませんが、識者、外部目線での助言や意見という視点も重要ですので、新潟大学の先生をはじめ、産官学などの各分野の皆様から個別に意見を求め、それを今回の計画に反映させることにしております。

4点目の答申内容をもっと詳しく村民に周知できないかというご質問ですが、審議会の委員の皆様からいただいたご意見を、村のホームページに掲載する準備を進めているところでございまして、計画の進捗状況と併せまして公開をしていただきたいと考えているところです。皆様からご覧をいただきますよう、このことについては広報せきかわを通じても周知をしていきたいと思っております。

○議長（渡邊秀雄君） 2番、近 壽太郎さん。

○2番（近 壽太郎君） ただいま答弁いただきまして、2つ目と3つ目について関連がありますので、それについて再質問させていただきたいと思っております。

確かに、ほかの市町村よりも審議会が、審議委員が多いというのは、私も6年前まで審議委員でありましたので、存じ上げておりましたけれども、審議委員の数が余計だからどうのこうのと言うつもりはないんですけれども、そのときに、私が委員やっていると確か村のことをよく学んでほしいというか、知ってほしいというか、そういう意味合いもあって、特に若い人たちを中心に委

員に選ばせていただいているという説明があったと思いますが、そのような考え、村長はおなじですか。

○村長（加藤 弘君） 今ほどの答弁いたしましたとおり、この審議会、今の形でしているのは先ほどお話ししましたとおり、2つの意味があるということでございます。それは申し上げましたとおり、役場がつくるんでなしに、役場と村民一緒になってつくっていこうという思いと、もう一つはとりわけこれからの関川を担う方々に、村の施策等、その機会に合わせてご理解いただいて、それに対するお話、ご意見をいただきたいという思いがあって、これまでの審議会は進めてこられたと認識しております。

○議長（渡邊秀雄君） 近さん。

○2番（近 壽太郎君） 私も、別にその審議会が多過ぎるとか、今のはおかしいんじゃないかという考えはないんですけれども、ただこれを有効にといいますか、活動してもらうには、もうちょっと実務的に、委員の方が内容をしっかり把握して審議できるという環境にないと、私の体験からいってもこの村のことを学ぶとか、今後のことを考えていくという上では、ちょっと乏しいような気がしておりました。

これがもっとこう実務的にといいますか、若い人たちが将来を見据えて希望ある村づくりを計画、また戦略を考えるには、専従とは言いませんけれども、そういう直接識者と話し合えるような、また直接学べるような場があれば、もっと活性化できるんじゃないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） 繰り返しになりますが、今の委員の選任についてはそれぞれの地域でそれぞれの課題があるわけでございますから、そういった課題を踏まえる中で様々な意見を交換、意見が反映できるようなということで設定しております。今おっしゃいました専門家の委員については、そういう視点でのご意見というのは個別に伺っておりますけれども、今後審議委員会委員の皆様とのお話し合いの中で、もう少し今後についてどういう審議会の進め方がいいのかということについては、皆様の意見を聞きながら、委員会が実のある委員会になるように、今後進めていきたいと思っております。

○議長（渡邊秀雄君） 近さん。

○2番（近 壽太郎君） 前向きな答弁いただきましてありがとうございます。今後、また5年後に、第7次というのが策定するのかわからないのか、あれですけれども、やはりこれは大切な一つの計画でございますので、第7次総合計画に向けて、戦略に向けてぜひ来年度から、そういう検討をしていただきたいと思っております。そういう検討をしていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） 時期を今、いつとは申し上げませんが、次期の審議に当たりまして議員のご意見を踏まえた形での、委員の方々のご意見をお聴きしながら、こういった審議がいいのか。それぞれ委員の方の、議員と同じ考えの方もありますし、あるいはそうでない方もおられると思いますので、その点については委員会の委員の皆様がまずは考えてもらって、どんな進め方がいいのかということ、次期の計画がつくる前にしっかりと議論したいし、新しい考えの下で策定できるように進めていきたいと思えます。

○議長（渡邊秀雄君） 近さん。

○2番（近 壽太郎君） どうもありがとうございました。委員の方の意見も大切かと思うんですけども、やはりリーダーシップをとっていただくのは村長だと思うので、村長の気持ちを委員の方に伝えていただいて、そういう方向に行くように努力していただきたいと思えます。

以上で質問を終わります。

○議長（渡邊秀雄君） 4番、伊藤敏哉さん。

○4番（伊藤敏哉君） 4番、伊藤敏哉でございます。

私から、旧小中学校の廃校施設等の現状と今後の利活用についてお伺いいたします。

現在の小中学校は平成21年、16年にそれぞれ統合され、使われなくなった旧小中学校の廃校施設等はそれぞれ10年、15年が経過いたしました。災害時の避難所に指定されている施設で、老朽化が著しい状況のものもございます。また、付帯施設であるプールも消防水利に指定されているものの、老朽化により貯水が困難な状況になっているものもあると伺っております。

平成27年3月策定の関川村公共施設等総合管理計画第3章2の（4）では、統合前の小中学校が9施設ありますが、利用されている施設とほとんど利用がないものあるいは老朽化が激しいものなど、様々です。その一方で、災害時の避難場所に指定されているものもあるため、地域との合意を図った上で、施設の在り方を決定するものとします、また、これらによって空いた土地等は活用、処分を促進しますと記載されております。

当計画は、平成27年度から令和5年度を計画期間としております。策定から5年が経過し、老朽化もさらに進行していると予想され、特に損壊や倒壊などが発生しないよう安全対策も必要になってくると思われまます。そこで伺います。

計画策からこれまでの廃校施設等の活用、処分の実績と今後の活用、処分の計画、具体的な計画がなければまたは方針をお伺いしたい。現在の損壊、倒壊の危険性の状況及び避難所に指定されている施設、それから消防水利に指定されているプール等の今後の再指定と伺いますか、今後も指定するかしないかという方針について伺います。よろしくお願ひします。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） 伊藤議員のご質問に順次お答えします。

まず初めに、計画策定からこれまでの廃校施設等の利用と処分の実績についてでございます。活用の実態としましては、地域の皆様の活動の場としての利用がほとんどでありまして、事業者としての利用は旧川北小学校での土産品加工製造での利用がございます。また、老朽化が激しく、安全性が保てない施設については、一部解体したところがございます。具体的な活用及び処分の実績につきましては、教育課長に説明をさせます。

次に、今後の廃校施設等の活用と処分の方針についてです。

土沢、川北、安角にありますふれあい自然の家のように、地域の皆様の活動の場所として利用している施設については、引き続き地域での活動拠点として利用願えればと思っておりますが、一方で利用されていない施設もございます。しかし、いずれのふれあい自然の家も、災害時の村の避難所に指定されていますので、その視点からの必要性も検討した上で、老朽化の状況等も勘案し、施設の活用、処分について考えていくこととしております。

次に、廃校施設の現在の損壊、倒壊の危険性の状況についてでございますが、損壊、倒壊のおそれがあり、安全性が確保できないような施設については、これまで解体処分を行っております。それ以外の現存施設については老朽化は進んでおりますが、倒壊等の差し迫った状況にはないと思われれます。

避難所の指定については、基本的には廃校施設の老朽化の状況も勘案し、維持管理も行いつつ今後も避難所として活用するとしておりますが、必要により代替施設についても指定を検討します。例えば、わかぶな高原のスキーセンターは避難所として活用ができるのではないかと検討しているところです。

廃校施設に附属しておりますプールについては、維持管理経費や事故リスクを勘案しまして、現在は水抜きを実施いたしまして空にしている状態でございますが、川北、土沢、沼のプールにつきましては地元の要望もあり、消防水利として水を張ったままとしております。今後の取扱いについては、地元の皆様のご意見を聴きながら対応してまいりたいと思っております。

○議長（渡邊秀雄君） 教育課長。

○教育課長（熊谷吉則君） 私から、今ほどの廃校施設の具体的な活用と処分の実績につきましてご説明いたします。

初めに土沢ふれあい自然の家につきましては、竹灯籠作りや地域の茶の間などの地域活動の拠点や、古民具の保管場所にも活用しております。次に、川北ふれあい自然の家につきましては、放課後子供教室として60名以上の児童が利用し、旧給食室につきましては地元業者に通年で貸し出しています。女川ふれあい自然の家につきましては、埋蔵文化財整理室として発掘調査で出土した文化財の整理や、保管場所として活用しております。安角ふれあい自然の家につきましては、タランペクラブや谷人クラブといった地域活動の拠点や、国際ボランティア学生協会 I V U S A の受入れ施

設としても活用しております。片貝ふれあい自然の家につきましては、公民館の備品類の保管場所として使用しておりますし、金丸ふれあい自然の家につきましては、体育館を老朽化により平成30年度に取り壊しました。グラウンドにつきましては、地元の方に貸し出しをしております。女川体力づくりセンターにつきましては、校舎棟を老朽化により平成30年度に取り壊しました。体育館につきましては、地域住民の健康づくりのために貸し出ししております。旧女川保育園脇にありました旧教員住宅につきましても、平成30年度に解体している状況であります。

私からは説明は以上であります。

○議長（渡邊秀雄君） 4番、伊藤さん。

○4番（伊藤敏哉君） ありがとうございます。大きな基本方針的な答弁については村長からいただきましたし、個別の利用実績については教育課長からのご答弁ありがとうございました。

先ほど申し上げました村の公共施設等総合管理計画について述べますけれども、その中に第3章のところに、次のような記載がございました。老朽化によって使用が不可能な施設は、解体するなど施設総量、施設の全体量を縮減させるものとしますと載っております。これは、先ほど答弁いただきました現在地域の方が活発に利用されている施設あるいは事業者の方に貸している施設以外の施設も、ほぼ利用はされていない施設もあるわけですが、この方針として施設の全体量を徐々に減らしていくんだということでございますけれども、今の段階で何か具体的な次はどこだと、どこを解体という具体的なものは、もし具体的なものの有無について現時点での状況をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） 旧学校以外にも、村が持っている現在利用していない施設がございますし、私が考えておりますのは、これまで様々な形で村の施設を使っておりましたけれども、一度全体について使っているものも含めて、どんな形がいいのかと再点検する時期になっているのかなと思っております。福祉施設も含めて全ての施設についてどんな形がいいのか。なるべく縮小する方向で検討し、またそれについては利活用がいいのか、民間手法がいいのか、今後の処分方針を考えていく時期に来ているかなと思っております。今現在それについて検討を進めているところでございます。

○議長（渡邊秀雄君） 4番、伊藤さん。

○4番（伊藤敏哉君） 今後、村の廃校施設以外の施設も含めて、今後の利用の再点検を検討されているということですが、ぜひ点検の前向きな実施につきましてお願いしたいと思います。

関連しまして、ちょっとさっきの管理計画の中の一部ですけれども、冒頭の質問の中にも入れておりましたけれども、統合前の小中学校については、地域との合意を図った上で施設の在り方を決定するものとし、記載されています。このことは、やはり学校というのは、我々住民にとり

ましては特別な施設でございましたし、今もやはり学校跡地といたしますか、学校施設に対しては他の空き家等とはまた違った感覚といたしますか、あそこで学んだんだな、遊んだんだなという思い入れも当然あるわけですし、それらをやはり住民への周知なくして一方的な解体というのは、やはり避けていただきたいと思うんですけれども、やはり年々老朽化していきますと、その学んだ時点の美しい思い出というものも逆に、寂れていく施設を見るについて逆に反対の気持ちといたしますか、懐かしさを通り越してつらいといたしますか、そういう感情も湧いてくるということ、私も含めてほかの人からも聞いたことがございます。思い出である場所と老朽化していくにつれて、切ない気持ちもあるということもございます。それで、やはり特別な存在の施設ではございますけれども、やはり先ほど村長がご答弁いただいたように、再点検の中で特に使っていない校舎につきましては、地元の意見を聴く機会もぜひ設けていただきたいと思いますが、この点についてお願いいたします。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） 学校統合については、それぞれの地域がそれぞれの苦渋の思いの中で統合されたことだとも思っていますし、したがってこれまで自分たちが学んできた小学校なりが、利用されなくなるというのは、地域にとって大変寂しいことだと思えます。そういう意味では、議員がおっしゃったとおり、一方的に行政がどうこうするということは多分言えないだろうなと思っていますので、いずれにしても、どういう形にするにしても地域の方々とのご相談の上で、対応方針を決めていきたいなと思っています。

○議長（渡邊秀雄君） 4番、伊藤さん。

○4番（伊藤敏哉君） ありがとうございます。最後にもう1点お聞きしたいんですけれども、実は先日旧金丸小学校と沼小学校を見てまいりました。久しぶりに訪れたんですけれども、やはり校舎等の老朽化は否めませんけれども、村でしっかりと草刈り等維持管理されていまして、きれいな状態だったと感じてまいりました。

先ほど、教育課長からご答弁ありましたように、金丸はグラウンドが育苗ハウスとして使われておりましたし、こういう使い方もあるんだなと見てきましたけれども、ぜひ可能な範囲でお願いすれば借りることもできるんだよという事例だと思うんですけれども、特に私地元女川なんですけれども、グラウンドの草刈りはしていただいておりますけれども、年に2回か3回の草刈りだと思うんですけれども、その間ぼうぼうになる時期もございますし、以前はコミュニティーでボランティアで私たちも出て、何回か刈った記憶もあるんですけれども、予算も厳しい中だと思うんですけれども、今年は特に運動会もできなかったのも、特にだったと思うんですけれども、もう少し回数細かくやっていただくなりあるいは地元の有志なども協力してくれと言え、私たちやる心構えはございますので、若干の何か終わってからの慰労的なものもご考慮いただければ、私たち農道とかいろんなところの草刈りやっていますので、そんなことも考えていただければと思います。

もう1点、女川のプールについて最後聞いていただきたいんですけども、周囲は草刈り等できれいになっていますけれども、中がやはりコンクリートの部分の外に出ているような雑草、ススキ、草が繁茂してきましたので、女川もちろんですけども、他のプールでもだんだんそういうコンクリートの割れ目から草など当然だんだん出てくると思いますので、グラウンドと併せてそういうもうちょっと詳細な環境悪化の程度について、見ていただければと思いますけれども、最後その点についてひとつお聞きします。

○議長（渡邊秀雄君） 教育課長。

○教育課長（熊谷吉則君） 議員の指摘がございましたけれども、私たちも必要な維持管理しておりましたけれども、もう少し周りの環境から見ても、そういった草が繁茂するような状況が続かないように頻度を増やしまして維持管理していきたいと思っておりますし、プールにつきましてもブロックの壊れる状況をよく確認しながら、そうならないような維持管理をしてみたいと思っています。ご指摘ありがとうございます。

○議長（渡邊秀雄君） 4番、伊藤さん。

○4番（伊藤敏哉君） ありがとうございます。それでは、村長からご答弁いただきましたが、先ほど再点検、全般的な再点検を検討しているということでございましたし、ぜひ実現に向けてご検討をお願いしたいと思います。また、細かい話になってしまいましたけれども、学校施設の細かい管理についてもいま一度点検いただきたいと思っております。

以上、お願いしまして、私の質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（渡邊秀雄君） それでは、11時15分まで休憩します。

午前11時01分 休憩

午前11時15分 再開

○議長（渡邊秀雄君） 休憩前に引き続き、会議を再開します。

次に、7番、高橋正之さん。

○7番（高橋正之君） 7番、高橋正之です。

先ほど、菅原議員からも鳥獣害に対しては質問ありましたが、ラップするところが多々あるかと思っておりますけれども、ご了承の上お聞きいただければありがたいと思います。

昨今、新潟県関川村内を含め、全国的に猿、イノシシ、熊等の野生鳥獣による人的被害や農作物被害が深刻な社会問題となっております。そこで、産業建設常任委員会では阿賀町に管外視察をお願いしまして、10月中旬に視察をさせていただきました。視察の内容は、阿賀町における有害鳥獣対策について研修をさせていただきました。

阿賀町は、平成25年に阿賀町鳥獣害防止計画を策定し、国県の補助制度を活用し、駆除や被害防

止に努めてきました。鳥獣害被害対策としては、猿、イノシシが主であり、特に猿の実態を把握するため補助事業を活用し、平成30年度と令和元年度の2年間で約2,260万円をかけ、GPS受発信システムを導入して猿の位置情報を把握しておりました。現在では、21群れにGPS発信機を装着しております。これにより、位置情報や活動エリアは、パソコンやスマートフォンより随時把握することができるようになっていました。また、今年度はICTを利用した捕獲おりを導入し、電気柵や追い払い用のエアガン、動物駆逐用の花火等の購入助成を行うなど、駆除や被害防止に努めておりました。また、人員体制については平成25年度に阿賀町有害鳥獣対策連絡協議会を結成し、実行部隊として地域おこし協力隊1名、集落支援員4名、狩猟会員58名を主要メンバーとして取り組んでおりました。庁舎内の体制としては、有害鳥獣係に正職員1名、臨時職員1名の2名体制で、忙しいときには各課から2名ずつ、交代で電話番等の応援体制で全庁的に取り組んでいます。

本村においても、行政、地域、猟友会が連携し、有害鳥獣被害防止のために、今以上に取り組むことが急務と考えます。そこで伺います。

1つ目、企業から有害鳥獣対策についての提案を基に、猟友会と協議を進め方向性について検討すると言っておりましたが、結果はどうなっておるのか状況を伺います。

2つ目、ICTを活用した鳥獣害対策の実証実験で、11月までの結果とこれからの本格運用について状況を伺います。先ほど、村長のお話では12月11日まで延期されたと申しておりましたが、11月中の結果について、もしできましたら状況をお伺いしたいと思います。

3つ目、村単独の事業で動物用の駆逐用花火、追い払い用のエアガンの購入はできないものか。その点についてお伺いいたします。お願いいたします。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） 高橋議員のご質問に順次お答えします。

まず、1点目の企業からの提案を基にした今後の方向性の検討についてでございますが、有害鳥獣対策におけるICT技術を使った取組が各地で盛んになる中で、具体的な取組方法を企業に相談をしてまいりました。そして提案を受ける中で、やはり捕獲おりの見回りが、一番猟友会にご負担をおかけしているのではないかと考え、捕獲おりにセンサーを取り付け、作動時には捕獲情報を静止画とともに通知されるシステムの実証実験を、NTT東日本株式会社のご協力の下、行ったところでございます。今回、実証実験を行ったシステムは、ほかにも鳥獣害被害の軽減につながる取組や、捕獲活動の負担軽減や効率化につながる資機材の情報収集を進め、村の実態に合った機器の中から具体的な取組を、猟友会と一緒に検討していきたいと考えているところです。

次に、ICT活用の実証実験の結果と本格運用についてでございますが、このたび実証実験の期間中の熊の捕獲頭数は1頭、下土沢でございますが、1頭のみでございます。詳細な検証はこれからでございますが、どれくらい日々のわなの見回り活動に効果があったか、猟友会からご意見を

聞き取る予定としております。現在のところ、見回り作業が楽になった、事前にわなの状況を知った上で近づけるので安心だという意見のほか、今回のシステムにリアルタイムの動画機能が欲しいといったご意見もお聞きしているところです。このほかにも、ICT活用した資機材は多数あるようでございますので、引き続き情報収集を進めながら、本格運用について検討していきたいと考えております。

3点目の動物用駆逐用花火、追い払い用エアガンの購入助成についてでございますが、有害鳥獣の被害軽減対策として、追い払い活動は被害軽減に有効な対策であり、個人での対応より集落ぐるみで大勢で行うほうがより効果的であるとも言われております。猿の出没時のロケット花火や爆竹などの追い払い活動は、これまで個人での対応が中心で、個人負担の割には効果が薄く、一方猟友会によるパトロールの要請については、その回数が多くなると猟友会の負担を大きくするというところで、大変苦勞していたところでございます。

そんな中、議員から今お話がありましたとおり、先般阿賀町の研修時に、飛距離の長い花火についてご紹介をいただきました。私もこの花火を現地で試してみましたが、やり方によってはかなり追い払い効果が期待できるのではないかと考えています。このため、次年度以降、試験的に猟友会にロケット花火を支給し、巡回パトロールや出没が多発する集落でどんな使い方が有効か、猟友会とも相談し、また専門家の意見も聞きながら検討を進めていきたいと思っております。

なお、追い払い用エアガンについては村でお貸ししておりますが、利用者も少なく地域ぐるみの取組を前提にしますと、むしろロケット花火の取組に重点を置くほうが望ましいのではないかと考えてございます。

○議長（渡邊秀雄君） 7番、高橋さん。

○7番（高橋正之君） 関川村でも、鳥獣害防止計画は25年に策定されておりますけれども、27年から30年までの計画であって、これについては猿とカワウについての計画でありまして、今それこそイノシシが増えておりますし、防止計画は見直しをかけながら策定する方向に考えはありますか。

○議長（渡邊秀雄君） 農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまのご質問でございますが、確かに計画期間が過ぎているものがございますので、適宜見直しをして進めてまいります。

○議長（渡邊秀雄君） 7番、高橋さん。

○7番（高橋正之君） 今年は確かに熊に関わらず近年はすごい、菅原議員からもありましたけれども、イノシシが増えておりまして、田んぼでも畑でも相当荒らされている状況なので、前回の定例会でも電気柵のお話が出ましたけれども、村長さんから、今年は申込みがあれば補正も組むあればあるんだよというお話もございましたけれども、その点についてはずっと27年から30年まで防止柵のみの計画なんですけれども、今聞いたICTの取付け等は今検討している段階で、実際にどうい

う状況であったかというのは、今ところの模索中であると思いますけれども、その点について状況をお伺いします。

○議長（渡邊秀雄君） 農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ICTを使った捕獲わなですね、実証実験させていただきました、まだ実証実験期間中ということもありまして、近々に猟友会の皆様方とその検証をしながら、まだほかにもっといいシステムがあるかもしれないということもありますので、いろいろとお話をさせていただきながら、そのシステムについても検討していきたいと考えています。

○議長（渡邊秀雄君） 7番、高橋さん。

○7番（高橋正之君） ICTについてはあれなんですけれども、今3番目の駆逐用火火については、村長さんからいいものだし、エアガンについては借りる人が少ないというお話でありましたけれども、駆逐用火火も我々も実験段階ですけれども、非常に効果あるものだと思います。感覚のある男の人たちであれば、何とでもできるのだろうかもしれませんが、電気柵にしてもエアガンにしても駆逐用火火は女性でもちゃんとできるものと思っていますので、ぜひやっていただけないかと思いますけれども。いかがなものでしょうか。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） 今ほど答弁申し上げましたとおりですけれども、やたらめったら打てばいいかということ、そういう話ではなしに、猿が慣れちゃうとあまり意味がないということで、どういう形でやれば、集落の中でそれが効果を発揮するのかをしっかりと見極めた上で、普及はさせていきたいと思っています。

○議長（渡邊秀雄君） 7番、高橋さん。

○7番（高橋正之君） それで、最後に今ほど農林課長からもありましたけれども、ICTの猟友会との話合い、会議をされてぜひいい結果を出していただいで、取組に全力を注いでいただきたいと思っています。今、それこそイノシシの話をしましたけれども、まだ人的被害が出ていないからまだ慌てないのかもしれませんが、被害が起きてからでは遅いのかなと思いますので、ぜひ対策に組み込んでいただきたいと思っています。

以上です。

○議長（渡邊秀雄君） 次に、3番、鈴木紀夫さん。

○3番（鈴木紀夫君） 3番、鈴木です。

私からは、新たな森林空間の総合利用について質問させていただきます。

村の8割以上を占める森林面積、うち4分の1の6,511ヘクタールが民有林です。平成30年に森林経営管理法が制定され、自治体が森林行政の事業主体との位置づけとなりました。当村も、関川村森林整備計画が今年4月から始まりました。昔はなりわいと生活が森林にあり、材木の利用率も高

く、盛んに森林保全がされてまいりましたが、現在は木材価格、需要、高齢化など様々な要因で森林事業従事者が減り、整備が行き届かない森林が増えました。森林は、保水力があり緑のダムと言われている防災の役目があり、またCO₂削減の環境問題、鳥獣とのすみ分け、水源問題、近年では森林が漁業の捕獲量にも大きく関係していることも分かりました。これらは全て、人の手が加えられて初めて得ることができるメリットです。また、このすばらしい森林資源の活用をこれだけにとどめず、森の教室や森の幼稚園の教育、里山ハイキング、森林セラピーなどの健康、フォレストアドベンチャー、グランピングなどの観光、里山整備で出た間伐材によるまきペレットの製造販売や小規模バイオマス発電など、教育、健康、観光、森林産業による雇用など多くの活用を提案していきたいと考えますが、村長の考え、所信をお伺いいたします。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） ご質問にお答えをいたします。

森林空間の総合利用についてということでございますけれども、村としましても森林、特に里山については治山治水といった防災面で果たす役割や、先ほども話がありました鳥獣被害の軽減のための緩衝地帯としての役割など、多面的な機能を有しているものと考えます。また、議員からのご発言のあったとおり、教育、健康、観光といった新たな森林ビジネスへの期待も持てると捉えております。特に、里山は菅原議員や高橋議員からも質問をいただいておりますが、鳥獣被害対策としての役割を果たしてきた重要な場所でありまして、次年度以降、有害鳥獣被害の軽減を目的とした集落ぐるみで、対策をモデル的に行いたいと考えているところでございます。

教育の分野といたしましては、森林内で木の伐採や植樹活動等の多様な体験等を通じて、人々の生活や環境等森林との関係について学ぶ森林環境教育の機会を、子供たちに提供しています。今後とも教育委員会と学校が連携して新たな取組の可能性を探り、工夫を凝らしながら村の豊かな森林空間を生かした体験活動を進めてもらいたいと考えています。

健康や観光といった分野では既に鷹の巣キャンプ場、大石オートキャンプ村などを中心に、村民や村外の皆様にリフレッシュしていただく森林空間の提供をしておりますが、キャンプ場施設ばかりでなく、村の豊かな自然の活用にもつなげていきたいと考えております。まきペレット販売やバイオマス発電など、産業としての活用は極めて魅力的ではありますが、事業の採算性を含め民間企業の視点からしっかりと検討していく必要があると思っております。

いずれにしましても、鈴木議員から多くの活用を提案をしていきたいというお話でございますので、ぜひ具体的なお話をお聞かせいただきたいと思っておりますし、村としてもできることはしっかり対応していきたいと考えているところでございます。

○議長（渡邊秀雄君） 3番、鈴木さん。

○3番（鈴木紀夫君） 今、回答ございましたけれども、鳥獣のすみ分けについてですが、先ほどお

っしやったとおり、菅原議員と高橋議員より質問がありました。熊、イノシシ、駆除、猟友会と協力してということでしたが、これらの駆除、殺処分なんですけれども、そことしての重要な対策であるとは考えますが、やはりこれに加え森林の整備がなされていけば、村が豊かになり鳥獣がえさを求め住宅地に進出してこなくなる、里山の整備により緩衝帯ができることによってそういう環境ができれば、有害鳥獣との共存を図れるのではないかと考えは、まさに同じでございます。

新しい森林産業を提案していくといいますが、先ほどの農林課等の話もございましたけれども、マンパワー、どうしても不足になるのではないかとということが懸念されますが、村上市ですと専門員として林業水産振興室、3名ほど専属で林業で働いているということですが、関川村の場合は1人、それも何かの仕事と兼用してということで、なかなかこういった提案していても話が進まないのではないかとということが考えられるんですが、これはどのような形で進めるお考えでしょうか。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） 関川村は、山が多い割には民有林が少ないわけですし、思った以上に実は少なく、村上はかなり広いわけですから、それを意向調査して今の森林管理計画、あれに対応する場合にはかなりの対応が要するというので人も要るのかなと思います。

今、どうして対応するのかというお話ですが、まずはどんな中身のものになるのかということがまずあって、それに対応するときどういう体制がいいのかという話になってこようかと思えます。具体的な提案を受けた中で、もし対応が必要であれば、どこかの部署を削ってでも持っていく必要もあるかも分かりませんが、その中身によって弾力的な対応をしていきたいと思っております。

○議長（渡邊秀雄君） 3番、鈴木さん。

○3番（鈴木紀夫君） 昨年より森林環境譲与税が施行されましたが、現在機構準備金の活用で国全体で400億円が譲与されております。令和6年よりは1人当たり1,000円の森林環境税が施行されれば、年間600億円の譲与がされる予定となっておりますが、今年度、村には譲与基準試算で800万円が譲与されましたが、この用途について公表の義務があるということで、その用途をお聞かせください。

○議長（渡邊秀雄君） 農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまのご質問にお答えいたします。

令和2年度の予算額につきましては、800万円を見込んでおりましたその使い道としましては、森林経営管理意向調査、林地台帳システム内のデータの年次修正業務にかかる経費と、森林情報管理システムというものを新たに購入する予定になっておりますので、そちらの経費、来年度予定しております林業振興祭の会場の準備費用に使用していくことになっておりました、全部で470万円を森林環境譲与税を充当いたしまして、残りの330万円につきましては昨年度同様、基金に積む予定になっております。

○議長（渡邊秀雄君） 3番、鈴木さん。

○3番（鈴木紀夫君） 今、基金使い方なんですけれども、経営管理整備アンケート、湯沢地区と滝原地区でされたと思うんですが、これも使われたと思うんですけれども、アンケート結果によって見えてきたもの、また今後危惧される問題って、どういったものがございましたでしょうか。

○議長（渡邊秀雄君） 農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 今、湯沢地区と滝原地区ということで話がありましたが、令和元年度に湯沢地区をやりまして、今年度滝原地区、取組をさせていただいています。滝原集落では43件で、26.32ヘクタールの委託を森林組合に委託して、意向調査を実施しています。中で、見えてきた結果でございますが、今現在の状況では、自分の所有地かどうか分からないというアンケート結果については1%程度ですので、それほど自分の山がどこにあるのか分からないという状態ではないのかなと思っております。

ただ、対象としましては、山林の今後の経営や管理についてどう考えるかという部分でございますが、考えていない、関川村に任せることも含めて考えたいというご意見が一番多くて、46%程度という結果が出ております。

○議長（渡邊秀雄君） 3番、鈴木さん。

○3番（鈴木紀夫君） 村に任せたいということであれば、村が主導を取って物事を進めると、割とうまくいくんじゃないかなろうかということに捉えたんですけれども、使い方について残330万円が基金に盛られているということで、今国でも問題になっているのが、譲与しても基金で積立てに使うと実際の林業、森林に使われていないという問題が、今出てきておりますけれども、このお金を専門員だったり人件費に回して、森林の事業を増やすという方法が一つあるんですけれども、実は国は市町村だけでなく、県にも譲与しております。県の使われ方としましては市町村への指導、サポート、こういったことにも派遣して可能だという回答があったんですが、これを使って何とかマンパワー不足を補えないものかと思うんですが、どうでしょう。

○議長（渡邊秀雄君） 農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまの県に譲与されるお金を使ってということでございますが、今、県といいますか、村上地域振興局の管内の市町村集まりまして、いろいろとこういった勉強含めまして、検討しているところなんです、そちらに県からの県のお金を使って人材は派遣していただいております。

村でもというお話がありましたが、隣の村上市でも林政アドバイザーということで雇用されているように聞いております。公募型の人材確保といいますか、そういったことをしているようでございますが、村上市と関川村で、今行っている規模がかなり違い、意向調査のお手伝いをしているということなんです、規模が違うこともありますし、今のところは必要がないかなと思っております。

今後、事業量等含めて多くなってきた場合には、そういった対応も検討していきたいと考えています。

○議長（渡邊秀雄君） 3番、鈴木さん。

○3番（鈴木紀夫君） 林業、今、森林組合に、また個人で林業の営んでいる企業などもございますけれども、正直林業、補助金なしでは運営できないのが現状です。林業や森林整備に関する補助金はこれ以外にも幾つもあると思うので、中では非常に補助率、有利な補助金があるということで、そういったものは使い方とかそういったものがあるとか、そういうのを知っている方がうまく利用する、企業もこれをうまく利用する企業、結局は大きな大企業、ほとんど使っていると。こういうのをうまく利用してもらいたいと。なるべく村の負担がないような状況で森林を再生していけたらな、里山を整備していけたらなと思うんですが、こういった補助金、うまく活用する、探す方法とか、何か考えておりますか。

○議長（渡邊秀雄君） 農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまのご質問でございますが、まずはやりたいことといたしますか、どのような施策が効果的なものか、そういったものも含めて引き続き情報収集をするとともに、関係する機関に相談をしながら進めていきたいと考えています。

○議長（渡邊秀雄君） 3番、鈴木さん。

○3番（鈴木紀夫君） 2030年までに達成するために掲げた目標SDGsというのがございますが、森林の持続可能な管理がうたわれております。また、菅総理も先日国会閉会の際の記者会見で、脱炭素社会やカーボンニュートラルについて、環境問題に取り組む発言がなされておりました。このカーボンニュートラルについても、2兆円規模の基金を創設するというので、かなりの力の入れようですので、関川村も森林の里山事業に取り組んで、各自治体の手本を示せるようなものになってもらいたいと思います。

また、2014年公開の矢口史靖監督の映画「ウッジョブ」ご存じでしょうか。都会育ちの18歳の若者がひょんなことから山奥の村で林業を体験する、その体験している間に、だんだんと100年先を見据えた林業の魅力に気づいていく映画ですが、この映画公開以来、林業に対する若者の就職率というのが非常に上がったそうです。まだ林業というのは魅力あるものであるということで、やはりこれ、村が林業に対して補助をしていかなければならないとは思いますが、今後こういった、今までやっている以外に譲与税を使って、何か林業に対して補助していくような考えはございませんか。

○議長（渡邊秀雄君） 村長。

○村長（加藤 弘君） うちの村の実態としては林業の多くを、森林組合に担っていただいています。現行、森林組合の事業ほとんど、公共事業と同様の補助金で事業を進めておりますが、様々な切り

口の中で、森林組合で新たな事業を提案していただければ、我々としてもそれを後押しをしていきたいなと思っております。そういう意味では、我々も情報収集いたしますけれども、森林組合も新たな切り口で何か事業をないかということをお互い検討していかなきゃならないかなと思っ
ているところでは。

- 議長（渡邊秀雄君） 鈴木さん。
- 3番（鈴木紀夫君） 質問終わります。
- 議長（渡邊秀雄君） それでは、13時まで休憩いたします。

午前 11時51分 休憩

午後 1時00分 再開

- 議長（渡邊秀雄君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

日程第4、議案第69号 関川村特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

- 議長（渡邊秀雄君） 日程第4、議案第69号 関川村特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

- 村長（加藤 弘君） 議案第69号は、関川村特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例についてでございます。これは、この条例で規定しております委員報酬の一部を改正するものでございます。

詳細は総務政策課長に説明させます。

- 議長（渡邊秀雄君） 総務政策課長。
- 総務政策課長（野本 誠君） それでは、説明させていただきます。

各種委員の報酬につきましては、別表で整理されております。

3ページをご覧いただきたいと思っております。

改定部分は1ページ、2ページはございませんで、3ページになります。右側が改正前、左側が改正後となっております。改正いたしますのは、一番最後に記載しておりますその他条例により設置された委員の日額報酬を、5,500円から4,000円に引き下げるというものでございます。これは、県内の町村の状況を参考にいたしまして、見直しを行い、改正させていただきたいと思っております。

それから、この1つ上の段に書いております大学教授等の専門的かつ高度の知識を有する委員というのがございますけれども、報酬を支払うような実態がございませんので、削除するというもの

でございます。

説明は以上でございます。

○議長（渡邊秀雄君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。3番、鈴木紀夫さん。

○3番（鈴木紀夫君） 今、大学教授の専門的かつ高度の知識を有するものところが削除されるということなんですけれども、こういった専門家の方が来た場合には、またこれをつけるということですか、予算。

○議長（渡邊秀雄君） 総務政策課長。

○総務政策課長（野本 誠君） 今、ご指摘のご質問であります。もしこういうケースが出てくれば、報酬外の謝金ということでお願いすることがありますけれども、別個その都度対応させていただきたいと考えています。

○議長（渡邊秀雄君） 5番、小澤さん。

○5番（小澤 仁君） 5番、小澤です。

一番下、改定されました日額の5,500円から4,000円に改定されたところになります。その他条例により設置された委員とございますが、今現在任命されている委員、具体、個別になるかもしれませんが、どういったのが該当になるかお答えいただきたいと思います。

○議長（渡邊秀雄君） 総務政策課長。

○総務政策課長（野本 誠君） その他委員というのがたくさんございますけれども、例えば関川村総合振興審議会の委員あるいは情報公開個人情報保護の審査会の委員、あるいはほう賞審査委員とか、そういった皆さんでございます。

○議長（渡邊秀雄君） これで質疑を終わります。

ただいま議題となっております議案第69号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第69号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 討論なしと認めます。

これより議案第69号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第69号は原案のとおり可決されました。

日程第5、議案第70号 関川村督促手数料及び延滞金徴収条例の一部を改正する条例

○議長（渡邊秀雄君） 日程第5、議案第70号 関川村督促手数料及び延滞金徴収条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第70号は、関川村督促手数料及び延滞金徴収条例の一部を改正する条例についてでございます。地方税法の改正により、地方税における延滞金の割合の特例の見直しが行われ、令和3年1月1日から施行されます。それに合わせて改正をするものであります。

以上で説明を終わります。

○議長（渡邊秀雄君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 質疑なしと認めます。

ただいま議題となっています議案第70号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思っております。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第70号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 討論なしと認めます。

これより議案第70号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第70号は原案のとおり可決されました。

日程第6、議案第71号 関川村国民健康保険税条例の一部を改正する条例

○議長（渡邊秀雄君） 日程第6、議案第71号 関川村国民健康保険税条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第71号は、関川村国民健康保険税条例の一部を改正する条例でございます。これは、地方税法施行令の一部改正に伴い改正するものでございます。

詳しくは、住民税務課長に説明させます。

○議長（渡邊秀雄君） 住民税務課長。

○住民税務課長（渡邊浩一君） 議案第71号 関川村国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてご説明申し上げます。

今回の改正は、地方税法施行令の一部改正に伴い、村の条例を改正するものです。添付してありますピンク色の用紙で、右下に議案第71号 関川村国民健康保険税条例の一部を改正する条例説明資料とあるものをご覧ください。

2の制度内容において、現行と改正後の比較を記載しております。国民健康保険税の減額の対象となる所得の基準について、軽減判定所得の算定における基礎控除額相当分の基準額を33万円から43万円に引き上げるとともに、被保険者のうち一定の給与所得者と公的年金等の支給を受ける者の数の合計数から1を減じた数に10万円を乗じて得た金額を加えるということに改めるものです。

なお、今回の改正は、令和3年1月1日から施行し、令和3年度分以後の国民健康保険税について適用させるというものでございます。

以上です。

○議長（渡邊秀雄君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありますか。4番、伊藤敏哉さん。

○4番（伊藤敏哉君） 4番、伊藤です。

この件についての勉強しようかと思ひましてネットを見たら、他の自治体のところの説明で気になったのがあったので、ご報告させていただきます。

軽減を受けるための手続は不要ですが、住民税の未申告者は軽減の判定ができませんので、所得のない人、所得がゼロ円でも毎年申告が必要となりますということが、うたわれておったんですが、この点、関川村では何ていうんでしょうか、今まで所得がない人は申告していないと思うんですけども、そういう方々も申告必要になるというような、ほかの自治体のホームページですけれども、このあたりの説明、いただきたいんですが。

○議長（渡邊秀雄君） 税務課長。

○住民税務課長（渡邊浩一君） 村でも、例えば所得のある方の家族で所得のない方については、所得のある人あるいは所得のない人でも、代わりに申告、相談に来ていただいて、一緒に申告をしていただいておりますし、まるきり所得のない世帯についても、申告してくださいということで通知は出しているんですけども、それでも申告されない方も中にはいらっしゃるという形であります。

原則と言えばよろしいでしょうか。申告をしていただくということが基本になっておりますので、そのようなことでほかの市町村では書いていると思われま

○議長（渡邊秀雄君） 伊藤さん。

○4番（伊藤敏哉君） 4番、伊藤です。

そうしますと、まず進め方としては、この制度が変わるから改めて村民の方に、今までゼロの人も申告してくださいよというPRは、関川村の場合しなくても不要というか、今までどおりの、要は村にあるデータでやりますよという理解でいいですか。

○議長（渡邊秀雄君） 税務課長。

○住民税務課長（渡邊浩一君） 今回の改正で、特に申告の関係で何か変わるということはないという形になっております。

○議長（渡邊秀雄君） 8番、平田さん。

○8番（平田 広君） 8番の平田です。

確認なんですけれども、基礎控除額が増えるので、被保険者にとっては有利になるというのかと解釈しています。これでいいですか。そういうことですか。

○議長（渡邊秀雄君） 税務課長。

○住民税務課長（渡邊浩一君） こちらの基礎控除額が、もともとの地方税法で基礎控除額が33万円から43万円に、1月1日から上がることとなります。それに合わせての今回、改正でございまして、特にこれによって有利になるとか、そういうことではないということです。

○議長（渡邊秀雄君） 9番、伝 信男さん。

○9番（伝 信男君） 今、平田議員からも質問ありましたが、被保険者の立場から言ってプラスになるのか、マイナスになるのか。例えば、関川村で今、国民健康保険被保険者の方、いられると思うんですけれども、この平均から比べて、例えば基礎控除額が基準が43万円まで、10万円引上げになるんですけれども、これに対して被保険者に対しての影響というのはどの程度あるんでしょう。

○議長（渡邊秀雄君） 税務課長。

○住民税務課長（渡邊浩一君） 今ほども説明させていただきましたが、もともとの基礎控除というのが所得税ですとか、そういったところの基礎控除ですね。それが33万円から43万円になるという形であります。それをその基準が変わるために、今回の国民健康保険税の基礎控除もそれに合わせた形で計算しましょうというものでございまして、特にこれが変わったからといって有利になるとか、そういうものはないという形です。

○議長（渡邊秀雄君） これで質疑を終わります。

ただいま議題となっています議案第71号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員

会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡邊秀雄君) ご異議なしと認めます。

したがって、議案第71号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

○議長(渡邊秀雄君) 討論なしと認めます。

これより議案第71号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡邊秀雄君) ご異議なしと認めます。

したがって、議案第71号は原案のとおり可決されました。

日程第7、議案第72号 関川村介護保険条例の一部を改正する条例

○議長(渡邊秀雄君) 日程第7、議案第72号 関川村介護保険条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長(加藤 弘君) 議案第72号 関川村介護保険条例の一部を改正する条例でございます。これは、地方税法の改正により地方税における延滞金の割合の特例の見直しが行われ、令和3年1月1日から施行されます。これに合わせて改正を行うものであります。

以上で説明を終わります。

○議長(渡邊秀雄君) これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

○議長(渡邊秀雄君) 質疑なしと認めます。

ただいま議題となっております議案第72号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡邊秀雄君) ご異議なしと認めます。

したがって、議案第72号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

○議長（渡邊秀雄君） 討論なしと認めます。

これより議案第72号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第72号は原案のとおり可決されました。

日程第8、議案第73号 関川村指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営上に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例

○議長（渡邊秀雄君） 日程第8、議案第73号 関川村指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営上に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第73号 関川村指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営上に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例でございます。これは国の基準省令が改正され、令和2年6月5日に交付されましたので、それに基づき村の基準等について改正するものでございます。

詳細は健康福祉課長に説明させます。

○議長（渡邊秀雄君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（佐藤充代君） それでは説明させていただきます。

1ページ目をお開きください。

改正後、第6条でございますが、管理者についての規定でございます。指定居宅介護支援事業所ごとに、常勤の管理者を置かなければならないことになっております。その管理者は、介護保険法施行規則に規定する主任介護支援専門員でなければなりません。令和3年4月1日以降におきまして、主任介護支援専門員の確保が、著しく困難である等やむを得ない理由がある場合につきましては、介護支援専門員を管理者とすることができる規定を加えるものでございます。

附則になりますが、管理者に係る経過措置でございます。上記の第6条の改正規定の適用は、令和9年3月31日まで猶予されるという規定を加えるものでございます。

以上で説明を終わります。

○議長（渡邊秀雄君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありますか。4番、伊藤敏哉さん。

○4番（伊藤敏哉君） 4番、伊藤でございます。

関川村における主任介護支援専門員は何人いらっしゃるのか。また、令和9年3月まで猶予があるようですけれども、関川村での主任介護専門員の配置はいつから可能であるのか教えてください。

○議長（渡邊秀雄君） 健康福祉課参事。

○健康福祉課参事（佐藤恵子君） 関川村には指定居宅介護支援事業所が2か所ございます。社協と愛広苑でございます。その中に、社協は4人介護支援専門員がおりまして、4人とも研修を経て主任介護支援専門員の資格を持っています。また、愛広苑の居宅介護支援事業所の介護支援専門員は1名でございますが、その1名も主任介護支援専門員の研修を受けて管理者として勤務しております。

○議長（渡邊秀雄君） 9番、伝 信男さん。

○9番（伝 信男君） 改正後、2のところは令和9年3月31日までの間となっておりますけれども、これは何か理由があるんですか。

○議長（渡邊秀雄君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（佐藤充代君） 国の基準省令に基づいて改正しているものでございますので、著しく主任介護支援専門員を確保できない場合はというのがありますので、猶予期間を設けたことであると解釈しております。

○議長（渡邊秀雄君） これで質疑を終わります。

ただいま議題となっております議案第73号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第73号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 討論なしと認めます。

これより議案第73号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第73号は原案のとおり可決されました。

日程第9、議案第74号 関川村後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例

○議長（渡邊秀雄君） 日程第9、議案第74号 関川村後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第74号は、関川村後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例でございます。地方税法の改正により、地方税法における延滞金の割合の特例の見直しが行われ、令和3年1月1日から施行されます。それに合わせて改正するものであります。

以上で説明を終わります。

○議長（渡邊秀雄君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 質疑なしと認めます。

ただいま議題となっています議案第74号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第74号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 討論なしと認めます。

これより議案第74号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第74号は原案のとおり可決されました。

では、1時30分まで休憩いたします。

午後1時21分 休 憩

午後1時30分 再 開

○議長（渡邊秀雄君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

日程第10、議案第75号 令和2年度関川村一般会計補正予算（第8号）

○議長（渡邊秀雄君） 日程第10、議案第75号 令和2年度関川村一般会計補正予算（第8号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第75号 令和2年度関川村一般会計補正予算（第8号）でございます。

これは既定の予算総額に5,660万円を追加するものでございまして、道路橋梁の工事請負費など不足する財源の追加などがございます。

詳細は総務政策課長に説明させます。

○議長（渡邊秀雄君） 総務政策課長。

○総務政策課長（野本 誠君） それでは、第8号の一般会計補正予算の説明をさせていただきます。

5,660万円を追加いたしまして、予算総額を57億7,690万円総額でございます。

歳出10ページからお願いいたします。

2款総務費1項総務管理費でございます。修繕料ということで100万円でございますけれども、光ケーブルの移設が必要になりました。場所は、金丸の入水沢橋の工事に伴うものでございまして不足する財源を補正させていただきたいというものでございます。

3款民生費1項社会福祉費2目老人福祉総務費につきましては、特別会計への操出金でございます。

4目の心身障害者福祉費でございます。心身障害者福祉対策費といたしまして扶助費でございます。介護給付費訓練等給付費等370万円、日常生活用具給付金50万円、障害児通所サービス扶助費60万円。いずれも給付費等の実績によりまして増額が必要になるといったものでございます。

11ページでございます。

5目国民年金事務費、過年度の精算で14万6,000円でございます。

2項児童福祉費ということで、児童館の管理費でございますが、光兔交流館、土日開放に伴いまして少し不足がございます3万3,000円を増額したいということでございます。

12ページ目。

5款農林水産業費1項農業費でございます。負担金ということでございますけれども、熊対応のものでございまして、猟友会の皆さんのパトロールの謝金あるいはドラム缶わな5基の製作費これを、関川村有害鳥獣被害防止対策協議会に負担金をお出しするというので、39万1,000円の補正ということでございます。

6款商工労働費1項商工観光費でございます。補助金で2つございまして、まず1つが商工会補助金18万3,000円でございます。これは、新型コロナウイルス対策の関係で、村内商工業が低迷しているということで、活性化を狙った商工会が実施いたします歳末の大売り出しに関する経費の一部補助というものでございます。具体的には、500円の買い物をすると買い物券が当たる三角くじをやるということでありまして、景品代は商工会が負担いたします。印刷物等の事務経費の2分の1を村が補助しようということで、18万3,000円計上させていただきました。

それから、その下、飲食店応援事業補助金でございます。これは今年やりましたデリバリーランチ880円の弁当を500円で買えるということで、大変好評でございました。12月末までの予定でした

けれども、依然として仕出し屋を中心に打撃があるということで、年末年始を含めまして1月末まで延長するというものでございます。見込みといたしましては、2,100食分見込んでおりまして、事務費補助を含めて100万円を商工会に補助するという予算でございます。

13ページ目をお願いします。

7款土木費2項道路橋梁費でございます。まず、2目の道路橋梁維持費でございますが、12節委託料でございます。設計積算委託料でございます。吹ノ沢橋、土沢橋橋梁補修工事の内容変更に伴いまして、委託料が増額になるということで150万円、その下の各種委託料でございますけれども、土沢橋の補修工事の施工中に、既設の橋梁の塗料からPCB成分、ポリ塩化ビフェニルが検出されたということでございます。その処理に当たっては、村が直接自治体が処分するルールになっているために、その補正予算で運搬処理委託料ということで、350万円を計上させていただいたところでございます。

14節工事請負費でございますが、吹ノ沢橋、土沢橋の補修工事の増工ということで4,200万円。その下の3目道路橋梁新設改良費ということで、村道両関四ヶ字郷104号線消雪パイプ敷設替工事ということで、100万円を計上させていただきました。

14ページ、9款教育費2項小学校費でございます。キャリア教育モデル事業の関係で消耗品の22万円を増額補正ということでございます。

4項の社会教育費につきましては、消耗品で15万円、消火器の入替えということであります。

歳入、7ページをお願いいたします。

第2表地方債補正でございます。限度額を増額させていただきたいということでありまして、4,350万円の増額であります。吹ノ沢橋と土沢橋の工事の関係でございます。一番左側に記載の目的というのが書いてありまして、括弧の中、辺地対策事業債と過疎対策事業債、2つ書いてございますが、今回増額をお願いしたい4,350万円につきましては、全てが過疎債ということになります。

それから、8ページ、歳入でございます。

まず、14款の国庫支出金1項国庫負担金、その下の2項国庫補助金、15款県支出金1項県負担金、それから次のページ、一部またがっておりまして、9ページの2項県補助金で一番上ですね。民生費県補助金ということでございまして、今申し上げましたいづれも、これは民生費で心身障害者福祉対策費の事業費に対する財源でございます。基本的な負担割合といたしましては、国が2分の1、県と村が4分の1ずつということでございます。

9ページ、またお願いいたしまして、2項県補助金の続きでございますけれども、7目教育費県補助金キャリア教育モデル事業の県補助金で11万2,000円、19款繰越金で前年度繰越金938万8,000円、21款村債でございますが、道路橋梁整備事業ということで4,350万円、吹ノ沢橋、土沢橋の補修工事、積算施工管理委託料の財源でございます。

説明は以上でございます。

○議長（渡邊秀雄君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。5番、小澤さん。

○5番（小澤 仁君） 13ページ、土木費をお願いいたします。道路橋梁維持費で説明の、すみません、そこですね、そこ、特別管理産業運搬処理委託料、これ土沢橋で見つかったPCBの運搬料という説明は受けました。その下、道路請負費4,200万円、吹ノ沢橋と土沢橋の増工ということなんですけれども、当初予算から見てかなりの増額になっていますので、詳細の説明をお願いします。

○議長（渡邊秀雄君） 建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 道路橋梁の工事請負費ですが、PCBの処理、要は塗装を剥ぐ工法なんですけど、特殊な工法を使いますので、今予定しているのは全国で数台しかない機械でその塗装を取る工事となりますので、車両等持ってくる運搬費と工事費に係る増額が多額になると。その代わり、処理した処分費が金額的に計算しますとトータルで安いということで工事費の増額はやむを得ないかなと思っています。

○議長（渡邊秀雄君） 5番、小澤さん。

○5番（小澤 仁君） 当初の予算から大幅の増額になっている点の詳細説明をお願いします。

○議長（渡邊秀雄君） 建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 当初、工事塗装の件については、何回ももう塗装工事をやり直していますので、PCB等が出ないという詳細設計時の委託業者の指導といいますか、意見もありましたので、工事、入ってから塗膜検査をして対応したほうが良いということになったものですから、このような形になりました。私どもとしてもこれほどかかるとは思いませんでした。聞くところによると、当初といいますか、年度初めのほうでは、PCBの処理もそこまで高い金額でもないという話ですが、やはりどんどん金額、処理費が上がっているというところもありまして、金額が増工しているということです。以上です。

○議長（渡邊秀雄君） 5番、小澤さん。

○5番（小澤 仁君） 予見ができなかったと今聞こえたんですけども、それでよろしいですか。

○議長（渡邊秀雄君） 建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 詳細を調べれば、やはりその辺は分かったのかもしれませんが、単費扱いとなっていましたので、塗膜の検査費もばかにならない、四、五十万円、直接の委託で検査費が四、五十万円かかるということから、今回そもそもないものと、PCBのは村内にない、コンデンサー等については保管していればそこではあるとはお聞きしていますけれども、橋梁の塗装については何度もケレンですね、削って、それで、塗装し直していますので、四十数年前の橋梁ですので、ほぼ古い塗料はないだろうと、全部塗り替えということで考えておりましたので、その辺

はほんの少しなんですけど、基準からすると少しなんですけれども、どうしても処理をきちんとしなさいということですので、今回増額で対応させていただきたいと思います。

○議長（渡邊秀雄君） 5番、小澤さん。

○5番（小澤 仁君） 分かりました。本日10日の補正で上がってきたわけなんですけれども、これが確認できた日時を教えてください。

○議長（渡邊秀雄君） 建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） すみません、ちょっと今手元に資料ないんですが、11月後半だったと思います。

○議長（渡邊秀雄君） 8番、平田 広さん。

○8番（平田 広君） 8番の平田 広です。

12ページ、有害鳥獣の関係ですけれども、39万1,000円、これシビアな数字だなと思ったんですけども、熊対応で人件費とかドラム缶の経費ということで伺ったんですけれども、参考までにお聞きするんですけれども、今年度現時点での熊とか猿、イノシシの駆除数について教えてください。

○議長（渡邊秀雄君） 農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） ただいまの駆除数ということなんですけど、熊については16頭ということで今お聞きしております。昨年8頭だったことから考えましても、倍増しているということでございます。猿については申し訳ございません、把握はしておりません。（「イノシシ」の声あり）

○議長（渡邊秀雄君） 平田 広さん。

○8番（平田 広君） イノシシは分かりませんか。

○議長（渡邊秀雄君） 農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） イノシシにつきましても、こちらには捕れたという情報は来ておりません。

○議長（渡邊秀雄君） 9番、伝 信男さん。

○9番（伝 信男君） 9番、伝です。

猿の駆除の確認。猟友会にお願いして猿を駆除してもらっているわけなんですけれども、それを村として確認、何頭捕ったかって。そういうことに関して。

○議長（渡邊秀雄君） 数は。

○9番（伝 信男君） 数は聞いていない。確認方法。村が猟友会にお願いして、猿の駆除をやっているわけなんですけれども、その1頭に対して金払っているわけですね。その金払う場合の頭数、数えねば。その確認方法を教えてください。

○議長（渡邊秀雄君） 農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 確認方法ですが、猿の駆除したときに尻尾を取るんですね。こちらに色

をつけたりして識別できるようにして頭数を確認しています。

○議長（渡邊秀雄君） 9番、伝さん。

○9番（伝 信男君） 尻尾で確認しているという話も以前から聞いているんですけども、中には確認なしで、頭数報告だけで金もらっているという人もいるらしいんですけども、それが事実かどうか村で確認していますか。

○議長（渡邊秀雄君） 農林課長。

○農林課長（富樫吉栄君） 村でも、猟友会に確認をして、実績写真等で確認してお支払いしておりますが、そういうお声もあるということですので、なお厳しく確認をさせていただきたいと思いません。

○議長（渡邊秀雄君） 3番、鈴木紀夫さん。

○3番（鈴木紀夫君） 3番、鈴木です。

10ページ目の地域振興費の説明の部分で、地域情報通信事業費、金丸であるということなんですけれども、これは老朽化か何かによる修繕でしょうか。

○議長（渡邊秀雄君） 政策室長。

○観光地域政策室長（大島祐治君） 入水沢橋の側道橋の補修に係る工事になります。以上です。

○議長（渡邊秀雄君） 観光地域政策室長。

○観光地域政策室長（大島祐治君） 光ファイバーケーブルそのものの補修に係るものではなくて、その工事に係る移設費用等について、予算取らせていただいています。

○議長（渡邊秀雄君） 3番、鈴木さん。

○3番（鈴木紀夫君） わかりました。

○議長（渡邊秀雄君） 8番、平田さん。

○8番（平田 広君） 13ページ、さっき小澤議員との関係でダブるところがあると思いますけれども、橋の関係、委託料であれば、これ350万円、皆単独ですけれども、起債の対象にならなかったのか。

○議長（渡邊秀雄君） 建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） すみません、そこまで調べていないんですが、多分単費扱いということだとは思いません。

○議長（渡邊秀雄君） 8番、平田さん。

○8番（平田 広君） 単費の起債の対象では全然違うので。過疎債でやれば7割8割は後で還ってくるわけだ。今その関係分からないのか。

○議長（渡邊秀雄君） 建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） すみません。第3次の国の補正予算で工事費も要望していますが、今現

在決まっていませんので、地方債で上げさせてもらっています。3次補正つき次第、中身については組替え等の処置になると思います。

○議長（渡邊秀雄君） 8番、平田さん。

○8番（平田 広君） もう1点、吹ノ沢橋の増工の関係ですけれども、今ここに金額が上がっていますけれども、工事もやっている、塗装して、水道管かな、工事やって、仮の鉄板敷いて今通っていますけれども、表板もあれだな、舗装やり直して、この後また工事か何かはあるんですか。

○議長（渡邊秀雄君） 建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 今の議員のお話は正面の見えるところだと思いますが、裏側といいますか、下側、そちらのコンクリートの劣化、鋼材、鋼橋なっていますので、塗装の補修、まだやるところはそれなりにあります。

○議長（渡邊秀雄君） これで質疑を終わります。

ただいま議題となっています議案第75号については、所管の産業建設常任委員会へ、会議規則第39条第1項の規定により付託します。

日程第11、議案第76号 令和2年度関川村国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号）

○議長（渡邊秀雄君） 日程第11、議案第76号 令和2年度関川村国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第76号は、令和2年度関川村国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号）でございます。

説明については健康福祉課長に説明させます。

○議長（渡邊秀雄君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（佐藤充代君） それでは、説明させていただきます。

歳入歳出予算の総額にそれぞれ30万円を追加いたしまして、予算の総額を歳入歳出それぞれ6億745万円とするものでございます。

205ページと206ページをお開きください。

まず、205ページの歳入でございます。

7款1項1目1節の繰越金に前年度繰越金30万円を追加するものでございます。これは、歳出の予算の財源とするものでございます。

206ページ、歳出でございます。

1款1項1目12節委託料に国保システム改修委託料30万円を追加するものでございます。これにつきましては、国保情報集約システムの連携用パソコンの設定作業を委託するものでございます。

以上で終わります。

○議長（渡邊秀雄君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 質疑なしと認めます。

ただいま議題となっています議案第76号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第76号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 討論なしと認めます。

これより議案第76号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第76号は原案のとおり可決されました。

日程第12、議案第77号 令和2年度関川村介護保険事業特別会計補正予算（第3号）

○議長（渡邊秀雄君） 日程第12、議案第77号 令和2年度関川村介護保険事業特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第77号は、令和2年度関川村介護保険事業特別会計補正予算（第3号）でございます。これは、制度改正に伴うシステム改修のための経費を追加するものでございます。

詳細は健康福祉課長に説明させます。

○議長（渡邊秀雄君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（佐藤充代君） それでは、説明させていただきます。

既定の歳入歳出予算の総額に、それぞれ120万円を追加いたしまして、予算の総額を10億3,970万円とするものでございます。

404ページをお開きください。

歳入。3款2項6目1節介護保険事業国庫補助金でございます。歳出予算で補正いたします介護

報酬等のシステム改修に伴う財源として109万3,000円を計上しております。

7款1項2目1節の事業費等繰入金10万7,000円でございますが、これにつきましても歳出で補正しておりますシステム改修の財源といたしまして、一般会計から繰り入れるものでございます。

405ページをお開きください。

歳出1款1項1目12節委託料でございますが、介護報酬改定等の制度改正に対応するため、システム改修を委託するものでございます。120万円の追加でございます。

以上で説明を終わります。

○議長（渡邊秀雄君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 質疑なしと認めます。

ただいま議題となっております議案第77号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第77号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 討論なしと認めます。

これより議案第77号を採決いたします。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第77号は原案のとおり可決されました。

日程第13、議案第78号 令和2年度関川村後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）

○議長（渡邊秀雄君） 日程第13、議案第78号 令和2年度関川村後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第78号 令和2年度関川村後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）

でございます。これは、制度改正に伴いますシステム改修経費を追加するものでございます。

詳細は健康福祉課長に説明させます。

○議長（渡邊秀雄君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（佐藤充代君） それでは、説明させていただきます。

既定の歳入歳出予算の総額にそれぞれ70万円を追加いたしまして、7,020万円とするものでございます。

504ページをお開きください。

まず、最初に、歳入3款1項1目2節後期高齢者医療制度円滑運営事業費補助金でございます。歳出の補正財源といたしまして13万円を追加するものでございます。

4款1項1目1節事業費繰入金57万円の追加でございます。これにつきましても、歳出予算の補正財源として一般会計から繰り入れるものでございます。

505ページをお開きください。

歳出。1款2項1目12節委託料でございます。システム改修委託料70万円の追加でございます。制度改正に伴うものでございます。

以上で説明を終わります。

○議長（渡邊秀雄君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 質疑なしと認めます。

ただいま議題となっております議案第78号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第78号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありますか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 討論なしと認めます。

これより議案第78号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第78号は原案のとおり可決されました。

○議長（渡邊秀雄君） 日程第14、議案第79号 令和2年度関川村下水道事業会計補正予算（第2号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。村長。

○村長（加藤 弘君） 議案第79号は、令和2年度関川村下水道事業会計補正予算（第2号）でございます。これは、修繕費の増額補正をお願いするものでございます。

詳細を建設課長に説明させます。

○議長（渡邊秀雄君） 建設課長。

○建設課長（渡邊隆久君） 説明の前に、すみません、1か所修正をお願いします。

802ページ。

支出ですが、1款1項1目処理場建設改良費となっておりますが、2目処理場建設改良費に修正をお願いします。

それでは、説明をさせていただきます。

801ページをご覧ください。

議案第79号 令和2年度関川村下水道事業会計補正予算（第2号）でございます。

資本的収入及び支出。第2条 予算第4条本文括弧書きを資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額1億3,306万1,000円は、引継金4,505万5,000円及び損益勘定留保資金8,800万6,000円で補填するものとするに改め、資本的収入及び支出の予定額を次のとおり補正するものです。

既定予算の支出に300万円を増額計上させていただきました。

802ページをご覧ください。

内訳としまして、支出の2目処理場建設改良費の修繕料として300万円を増額計上させていただきました。内訳といたしまして、公共下水道修繕分を200万円、農業集落排水修繕分として100万円、合計300万円を計上させていただきました。

以上で関川村下水道事業会計補正予算（第2号）の説明を終わります。

○議長（渡邊秀雄君） これで提案理由の説明を終わります。

これより質疑を行います。質疑はありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） 質疑なしと認めます。

ただいま議題となっております議案第79号については、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊秀雄君） ご異議なしと認めます。

したがって、議案第79号については委員会付託を省略します。

これより討論を行います。討論はありませんか。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

○議長(渡邊秀雄君) 討論なしと認めます。

これより議案第79号を採決します。

お諮りします。本案について原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(渡邊秀雄君) ご異議なしと認めます。

したがって、議案第79号は原案のとおり可決されました。

○議長(渡邊秀雄君) 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

大変ご苦労さまでした。

午後2時03分 散 会